

IUHW

33号

The gazette of International University of Health and Welfare



やわらかな光の中、医療福祉の道を歩む

特集

インタビューシリーズ 鈴木先生に伺う

1年生インタビュー・卒業生からのお便り

国際医療福祉リハビリテーションセンターから

SKYPerfectTV!放送開始 他



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成12年7月15日

編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116

ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp>

鈴木先生に聞く

平成十二年五月二十日収録

（聞き手 広報委員長宮尾洋子）



鈴木 五郎先生

社学科の学科長、鈴木五郎先生に主にボランティア活動について伺いたいと思います。鈴木先生、IUHWのインタビューにこの協力をいただいています。先生はご就任直後にボランティア委員会を組織され、委員長としてご活躍、ご指導していただいております。が、この委員会はどういう活動をしているのでしょうか？

鈴木 四年間の学生生活の中で七学科の学生が、それぞれ病院・施設等への実習に出ますが、実習とは違った意味で病院や施設、あるいは在宅の高齢者や障害者、子ども達とボランティアを通して定期的に人間関係、コミュニケーションを持つことが貴重な体験になるのではないかと思います。ですからボランティアを学生達にぜひ勧めたいと思っております。ボランティア委員会を組織したわけですが、ボランティア活動はあくまでも学生が主体です。それを側面から応援するような役割という意味で各学科の先生方に出していただくと、定期的に会合を開いて情報交換をしています。

昨年春に、七学科の二年生を対象にボランティアアンケートを実施しまして、いくつかの事実がわかりました。入学前には格的なボランティア活動を体験してきている学生が五割、二十人に一人の割合でした。これは全国の平均的な数字と同じ様な傾向です。また、大学に入学後一年間でどのくらいボランティアに参加経験を持っているかというと全体で十九%と五人に一人の割合で、特に多いのが作業療法学科、看護学科、医療福祉学科でした。さらに、これからボランティア参加希望がどのくらいあるか聞いてみると、今後機会があればぜひ参加したいと答えている学生が全体の六十二・六%で、特に参加希望が多いのが作業療法学科、言語聴覚障害学科でした。男女で比較すると、圧倒的に女子学生の方が参加希望が多いですね。近隣の地域でボランティア活動をしている学生達もおりますし、又地域にもボランティアグループがあると見えますが、地域

鈴木 との連携、交流はどうなっておりますか？

鈴木 様々な形で交流があります。大田原市内民団体のほかボランティア大田原市民団体があって、その内の十数団体が大田原ボランティア連絡協議会というものを作っています。例えば、本学の代表的ボランティアサークルである「あじさい」や「躍」、黒磯市の知的障害者施設その他ではその協議会と連携がよく、つい最近まで会長をされていた方がご自宅にも色々な機会に招かれています。それから看護学科の学生を中心とした献血のボランティアサークルは、栃木県内の大学・短大・専門学校などと連絡組織を作っています。このように色々な形で地域との交流はすすんでいます。学生達がそのような形で地域に関わることが出来れば本学の理念を実現させたいというわけですね。今まで奉仕活動の経験がなくても、これから機会があれば参加したいという志願者もいると思うのですが、このボランティア初心者達はどういうアドバイスをしていたらいいと思いますか？

鈴木 ボランティア活動に参加しようということに一番大事なことは、ボランティア活動を通してお友達になった高齢者や子ども、障害児の方との約束をきちんとして守ることです。その後の約束をきちんとして守ることや心がけ、例えばサークル活動に参加するときには、それなりの学習や練習が必要となります。人間相手の活動ですから、無責任に任せていたってかまいません。また、嫌な気がしたときには参加を辞めたいという方もあります。週一回とか月一回とか約束しただけでいいですが、無理のない形で行えるだけ継続して、あてにならないようなことを続けたいと思いませんか？無理をしないで、楽しんでやれる方に参加したいですね。二つ目は、よそ者として参加しないこと、楽しんでやれる方に参加したいですね。三つ目は、よそ者として参加しないこと、楽しんでやれる方に参加したいですね。三つ目は、よそ者として参加しないこと、楽しんでやれる方に参加したいですね。

鈴木 ボランティア活動には人間関係の仕事が多いと思えます。相手の方と親しくなり、過ぎて相手のプライバシーに踏み込んでしまわないようにすることが大切です。そんなことも学ばなければいけません。

鈴木 お年寄りや障害者の方と関わる際の鉄則は、相手のプライド・自尊心を尊重することです。相手のプライドや自尊心を尊重すること。相手のプライドや自尊心を尊重すること。相手のプライドや自尊心を尊重すること。相手のプライドや自尊心を尊重すること。

鈴木 現在二つの施設の生活指導員さんなど、どんなボランティアが必要かと検討して、その子ごとの施設では、食事介助をしてくれたり洗濯物が毎日たくさん出るのを助けてもらったり整理するボランティアが欲しいとか、大人の施設では、散歩とか市内への買い物とかゆくゆくは旅行を手伝って欲しいとか、色々なニーズがあがっています。このようにボランティア募集の掲示をして、ボランティアセンターにコーディネーターを一人配置してコーディネートしてください。ボランティアの中で、学生よりむしろ市内の一般市民の方に呼びかけたほうがいいと思われませんか？これは、大田原市の社会福祉協議会にお願いで連携を取っているところと考えています。センターをそういうところとして活用していきたいですね。

鈴木 インタビューありがとうございます。鈴木先生、今年が五月から六月にかけて、ぜひボランティア活動に挑戦してください。ぜひボランティア活動に挑戦してください。ぜひボランティア活動に挑戦してください。

鈴木 はい。市の社会福祉協議会と連携したり市内の市民団体と交流したりしていきたいですね。七月一日土曜日にふれあいの丘で大田原で初めて四十五団体の呼びかけたボランティアの集いがあつたのですが、その世界人としても大学が参加させて欲しいという話をいただきました。これは、各団体から代表者に集まっています。まずは、各団体から代表者に集まっています。まずは、各団体から代表者に集まっています。

鈴木 そうですね。ボランティア通貨のような制度ができたおもしろいなと思います。先生、新しいことを始めるというのは楽しいことですね。先生、新しいことを始めるというのは楽しいことですね。先生、新しいことを始めるというのは楽しいことですね。



日本語聴覚士協会 設立記念祝賀会開催



開会の辞を述べる藤田郁代会長

二〇〇〇年六月八日(木)午後六時半より、東京都港区の「虎ノ門パストラル」において、協会設立記念祝賀会が二百十二名の参加者を得て開催されました。参加者の内訳は会員九十名、来賓七十五名、企業関係者四十七名であり、来賓には国会関係者、厚生省関係者、障害者団体関係者、関連学会及び関連団体関係者、養成校関係者等のご出席を得ました。

まず、藤田郁代会長(本学言語聴覚障害学科学科教授)が言語聴覚士法成立までの経過、ご支援を賜った方々への感謝、今後我々言語聴覚士が精進する旨を述べ、開会の辞と致しました。

来賓においては、長年にわたりST資格法の制定に尽力された斎藤十朗参議院議長、医療職種を所管する厚生省健康政策局の伊藤雅治局長、医学会関係から津山直一国立身体障害者リハビリテーションセンター名誉総長、日本肢体不自由児協会会長、続いて言語聴覚障害者団体を代表して橋本一夫全国失語症友の会連合会理事長が挨拶されました。引き続き、来賓の紹介、祝電披露、国際医療福祉大学高木邦格理事長による乾杯等が行われ、設立記念祝賀会は多くの方々からの祝辞を受け、盛会のうちに終了致しました。(西尾正輝)

「留学生・海外経験者の集い」



国際交流委員会委員長 田中美子
恒例となった「集い」が、五月三十一日にカフェテリア二階で開催されました。出席者は、理事長、学長を始めとして、留学生・帰国生徒、海外生活体験学生約三十名、ホストファミリー(八家族)、学科長、日本語担当教員、昨年の海外活動引率教員、国際部・交流委員等約四十名でした。大田原国際交流会からも副会長事務局長がご参加下さいました。ダンス部四年生六名による魅力あふれるパフォーマンスが華を添えました。

思えばこの「集い」は第一回目(平成七年約二十名の会から始まりました。年々参加者の枠が広がり、七十・八十名の大パーティーに至っています。これも国際化の現れでしょうか。また、二年目から学生のサークルにパフォーマンスをお願いしています。平成八年、吹奏楽部、九年、ハンドベル部、十年、ブラスバンド部、十一年、チアリーディング部でした。第三年目(平成九年)から、新留学生支援のため「ホストファミリー制度」を作り、教職員の有志にホストファミリーになっていただいています。留学生が寂しい思いをしないよう、また、日本の文化を知るお手伝いをしていたためのもので、暖かく、家族的アドバイザーを務めていただいています。学内、学外のご協力、ご支援に感謝しております。

「留学生とホストファミリー」



大学院 教授 今井四郎
一九六一年から私はジョンスホプキンス大学大学院に留学し、優れた教育・研究に触れ、米国の国際的で、文化が極めて高いのに驚嘆しました。大学は多数の留学生を受け入れ、留学生への援助にも大層心を配っていました。その一つにホストファミリー制度がありました。ホストファミリーには、大学の同窓生の家庭が選ばれます。私のホストファミリーは私が渡米する前にお手紙を下さり、その後、私もが有意義な留学生を送ることができるよう配慮して下さいました。留学の経験から、私は留学生に、学術を学ぶことはもとより、日本の文化を知ること、更に、外国および自国からの留学生と友好を深めるように話してきました。さて、本学でホストファミリーの制度が始まった年、韓憲受君のホストファミリーに選ばれました。彼は優秀な意欲的な学生で、礼儀正しく、豊かな見識を蓄えていることを知りました。そのような彼に接して、私は、「留学生は母国の文化を伝える代表者の一人」で、従って、我々は、留学生との交流により留学生の国の文化を知る機会に恵まれることに思い至りました。幸いにも、今年度、好青年の陳光宏君のホストファミリーをも引き受けることになりました。

「心の拠り所」



理学療法学科 四年 韓 憲受
母国を離れ来日している留学生として様々な困難に立ち向かってきました。外国語である日本語で勉強をしながら異文化や異なる習慣等の環境に適応しなければならなかったからです。そんな時、今井四郎先生夫妻は色々力になって下さいました。そのおかげで今は周りの環境にも慣れてきて日本人が好きになりました。

結婚もせず三十五歳にもなりましたが、遅れ馳せながら自分のしたい分野の勉強がこの大学で実現できてとても嬉しいです。これから本大学院に入り勉強を続けていきます。

「劉恵林さんのホストファミリーならぬホストブラザーとなって」

理学療法学科助教 黒澤和生
劉さんとは、PT学科主催留学生歓迎焼き肉パーティーを開いたときに会話をしたのが、初めての出会いです。その時、T先生が共通の知り合いであることが発覚しました。私にとってT先生は恩師であり、仲人です。劉さんにとっては、中国で、T先生に直接技術指導を受けた経験がありました。そんなきっかけがあつて、ホストブラザーを快く引き受けさせていただきました。

国際交流 留学生・ 海外経験者 の集いより

これから、劉さんに学生時代を有意義に過ごしていただくために、是非私をブラザーとして慕ってもらえればと思っています。まず、考えていることは、劉さんも懐かしいことでしょうか。是非、T先生を囲む会をもちたいと思います。それから、私は個人的にお茶に興味があり、本場の中国茶を飲みたいたいと思っております。学生生活を楽しんでほしいと思います。

「世界に通用するPTになりたい」



理学療法学科 一年 劉 恵林

私は当大学に留学出来て、とても嬉しいですが、ここには先進的な教育施設があり、各学科の先生方は日本、中国および世界でとても有名です。私のホストファミリーは黒澤和生先生です。先生は何回も私に勉強の方法、生活の仕方、病気などで困っていないか聞いて下さいました。また、交友関係でも、入学以来一緒にご飯を食べたり、ノートを見せてくれるいい友達もできました。とても幸せです。

私は今回、日本の先進的な理学療法理論と技術を学び、将来中国に持って帰りたいと思っています。

医療福祉チャンネル774

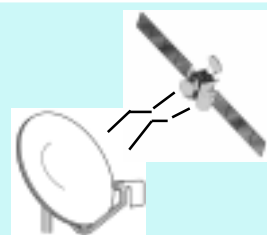
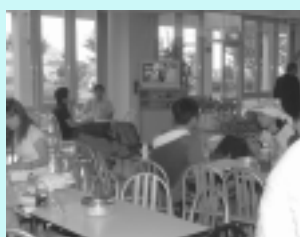
介護保険がスタートし、ますます医療・福祉そして介護に関連する情報の発信が必要となってきました。そこで医療機関に携わる方、医療・福祉専門職の方、それらをこれから勉強したい方、ご家庭で介護されている方、医療・福祉・介護最新の情報が必要な方々のニーズに応えるべく、国際医療福祉大学の全面的バックアップのもと、医療福祉総合研究所が設立され医療福祉チャンネル774がスタートいたしました。



SKY Perfect TV!

放送始まる

本学の教員も多数番組の企画から参加し、豊富な知識と経験を活かし充実した放送をするために活躍しています。なお本学広報番組で学生さんの映像も多数放送中です。



学内でも医療福祉チャンネル774が視聴できます。メディア室ではE棟一階、カフェテリア、L棟学生談話室の3カ所にアンテナ及びチューナーを（配線工事・アンテナ設置工事を含め）設置しました。是非ご覧ください。

医療福祉チャンネル774ではこれから理学療法士・作業療法士・看護婦（士）・病院職員などのコ・メディカル分野の専門職、ホームヘルパー・ケアマネジャーなど、介護福祉分野の専門家の方のための講座の提供や、ケアマネジャー受験者、医療福祉施設経営者、介護ビジネスへの参加希望者、家族介護者、ボランティアなど様々な視点から事象を解説しています。

受信には、専用のアンテナとチューナーが必要です。なおチューナーセットの取り扱いに業者のご紹介もしておりますので下記の番号にお気軽にお問い合わせ下さい。

03-5772-5548

スカイパーフェクTV！に関するお問い合わせは...
スカイパーフェクTV！カスタマーセンター
.0570-039-888(営業時間 10:00 ~ 20:00)
携帯電話からのお申し込みは045-339-0202
ホームページ <http://www.skyperfectv.co.jp>

SKY PerfectTV! 加入料 ¥2,800 (初回のみ)
【毎月の視聴料金】
SKY PerfectTV! 基本料金 ¥290/月
「医療福祉チャンネル774」視聴料 ¥2,000/月
金額はすべて税別、2000年7月現在の料金設定です。

医療福祉チャンネル774に関するお問い合わせは...
株式会社医療福祉総合研究所
〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-34 島籐ビル8F
.03-5772-5548 FAX.03-5772-5549
ホームページ <http://www.spaceyacht.co.jp>



ボランティア委員会

ボランティア
募集開始

大学の敷地内に本年四月オープンした「なす療育園」「那須療護園」に学生のボランティアを導入して、利用者と交流してもらおうと計画づくりがすすめられていましたが、六月十五日からいよいよ募集が開始されました。

内容は、食事介助、部屋での介助手伝い、散歩や買物物の外出介助、洗濯物の整理などです。大学内に福祉施設があることを最大限に活かして、学生と利用者の交流をすすめて双方の生活を豊かにすることに役立てようというものです。

六月二十七日から四日間の研修を行い、夏休み前には具体的な実践にはいる計画です。(鈴木五郎)

紀要委員会

第二回紀要委員会を五月十六日(火)、第三回を六月二十日(火)に開催いたしました。紀要第六巻の原稿募集を開始いたします。投稿にあたっての注意をこれまでの経験から記述いたします。著者となる人は原稿を書き上げた後何度も推敲を重ねてください。原稿の締切りに追われるでしょうが、内容の独創性、正確さ、文章表現は重要です。投稿によって一度著者の手を離れた原稿は最早著者の自由にはなりません。審査の対象として厳しい目に曝されています。審査は論文の内容に近い専門家によって行われ、発行されるまで審査結果に従うことになります。投稿規定を守ってください。(野原功全)

広報委員会

平成二十二年委員構成(前号で報告)の変更

- 一、情報メディア部:部長 相馬孝行に代わって細井良三
- 二、職員人事異動により桑原崇に代わって花塚 洋史(情報メディア室)
- 三、事務責任者 高石和秀
- 四、委員会書記 薄井麻衣子(学生課) (宮尾洋子)

国際部 国際交流委員会

一、199国際ボランティア・研修活動報告書」が出来あがり、参加学生、学内外の関係者に配布しました。

二、恒例の「留学生・海外経験者の集い」が五月三十一日カフェテリア二階で開催されました。(詳細は本誌三頁)

三、(財)栃木県国際交流協会主催「外国人留学生新規留学生のためのガイダンス・懇親パーティー」が六月三日、宇都宮の国際交流センターで開催され、新留学生三名と西留委員が参加しました。

四、文部省・千葉大学主催「平成二十二年留学生交流研究協議会」が、六月八〜九日幕張プリンスホテルで開催され、南井、西留委員が参加しました。

五、第二回栃木県青年海外協力隊帰国隊員報告会」が、OB会、COVA関東支部、本学の共催により六月二十日COVA教室で開催されました。テーマは「発展途上国におけるブライマリーヘルスケアの実状」。中米からの報告・青木孝子(クアテマラ 保健婦)、南米からの報告・末光ゆき子(パラグアイ 助産婦)でした。司会は看護四年・高田恵子(協力隊OG)、大谷学長の講評で締めくくられました。内容の濃い、実体験に基づく報告に、百余名の聴衆は興味と関心をよせ、盛会でした。今後も継続して欲しいとの要望が、多数の学生から出されています。

就職委員会

就職情報は「棟へ」

就職前線は、六月二十五日各県指定都市などで一斉に行われた公務員試験の受験が焦点でした。

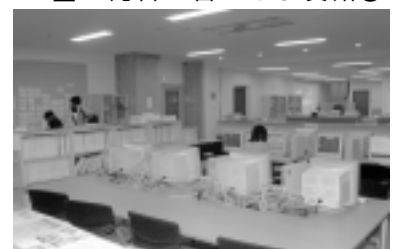
五月三十一日現在の求人件数は、二百三十三件、二千八百一十一名。四年生は、学科により差異がありますが大半が実習に追われていて、就職活動が本格化するのは夏ごろからであると思われる。六月二十一日には、高木理事長から本年度初めて卒業生を出す医療経営管理学科と医療福祉学科の四年生に対してオリエンテーションが行われました。

なお、大学院用の「棟」が完成したことに伴い、一階に広いスペースを取って新たに就職情報コーナーが設けられ、就職情報用のパソコン十二台が設置されました。(鈴木五郎)



学生課

「棟」(大学院棟)一階で業務を開始しました。就職資料コーナーなどもまだまだ不足もあるかと思いますが、日々少しでも改善するよう努力をしています。日に日に学生の数が増えるのがうれしいようなつらいような...とはいえ管理棟時代より広くなったので、学生談話室、奨学金・アルバイト・就職活動・その他の相談などに活用してください。学生相談も始まりましたこの原稿が活字になる頃には正式に活動していること(でしょう)ので、困った時には相談にきてください。駐車場について。既に登録は締め切りました。従って未登録車両は逐次構内乗り入れ禁止の措置が執られますので注意して下さい。



マロニエ会の活動

今年度のマロニエ会はちょっと違います。会員数が急増したことを受けて、様々な活動がされています。今回はその一部をご紹介します。

現在、学科・支部会発足のために役員会で多くの時間を割いて計画されています。学科会とは所属学科の、支部会とは所在・出身の地域での組織を意味します。卒業後でも同窓会を通して、何らかの形で会員同士の繋がりを持つことができるのです。これにより、就職や研究などについて会員のメリットが増えるわけです。詳しくはHPを覗いてください!



「マロニエ会」設立1周年記念パーティーにて(7/1)

(代議員 獅子内 善徳)

<http://www.maronie.iuhw.ac.jp/>

図書館だより 夏期休暇中の開館時間のお知らせ

平常の開館時間

9:00 ~ 23:00(平日)
9:00 ~ 17:00(土曜日)

を夏期休暇中は右のように変更致します。ご確認下さい。なお、日曜日は休館です。(飯沼一浩)

期 間	開館時間
8月1日(火) ~ 9月2日(土)	平日 9:00~17:00 土曜日 同上
※休館、8月7日(月) ~ 8月14日(水)は図書館休のため休館	
9月4日(月) ~ 9月22日(金)	平日 9:00~21:00 土曜日 9:00~17:00

一年生インタビュー

新たに今年大学に入学した学生達の希望に胸を膨らませたインタビューをお聞きください。



看護学科



奥水奏子 (埼玉県出身)

私は入学したての頃は、牛臭くて、カエルもうるさくて、遊ぶところもなく、何でもこなす片田舎に来てしまったんだろ？と思っていました。でも三ヶ月経ち、考え方も少しずつ変わってきたように思います。「数少ない看護学科のある大学にはいることができて、自然も豊かな環境の中、今この大学で頑張っている」と思っています。



辻忠史 (千葉県出身)

有り余る大自然の中、牛や蛙の大歓声を聞きながら生活でき、精神衛生上充実しています。私にとって、本学は人生二度目の大学であるため、講義や試験等のシステムにはほとんど戸惑いもなく過しせています。創立して日が浅いので、学生生活の面で多少の面倒はありますが、これから改善されていくことを期待しています。他学科の人達ともサークルや数々の行事を通じて知り合え、交流の幅が入学時より格段に広がりました。

理学療法学科



大藪誠士 (福岡県出身)

三ヶ月生活してみて、牛小屋があるので牛臭いこと、近くにコンビニしかないのので買い物が大変なことなど、悪い面ばかりが目につきますが、大学まで徒歩五分なので、寝坊してもたいてい間に合うこと、近くにいろいろ相談できる友達が多かったことなど、良い面もありました。四年間、がんばって生活していきたいと思えます。



福祉大に入学して約三ヶ月が過ぎ、一人暮らしにもかなり慣れてきました。ただ、店が早く閉まったり、家の前の田んぼでカエルが馬鹿みたいに鳴いたり、玄関前の電灯に虫が異常に集まったり、午前二時をすぎるとなぜか鳴き始める変な鶏が近所にいるのは面倒に感じます。でもそれらを我慢すれば、結構楽しい生活を送っていると思えます。

作業療法学科



杉山純子 (茨城県出身)

前期の講義も終わりに近づき、毎日勉強に追われながらも楽しく過ごしています。医療系の大学なので、ある程度の忙しさは覚悟していましたが、現実はそのレベルをはるかに上回るものでした。興味深いものばかりで、いつも新鮮な気持ちでスタートがスタートです。もうすぐ試験が始まりますが、気持ちよく頑張りたいです。



町田百香 (東京都出身)

大学に入学し、はや三ヶ月が経ちました。一人で生活するようになり、初めて家事全般を一人でこなす事の大変さに気づきました。例えば、何気なく作っても例えば、何気なく作っても自分で作るとなると母の何倍も手間がかかり、未だお弁当箱の隙間を掃除する事も手間と時間を要しています。洗濯も週末の天気予報にも関わらず、お互い様、という事も、皆に身をもたせて教えてもらっています。

言語聴覚障害学科



田中信司 (大阪府出身)

引越してきた当初はなによりも「押しボタン信号」に驚きました。大阪にもあるにはあったのですが、押すとはあつたのになら、というのには初めは衝撃でした。最近では延々と待ち続けた挙句、ボタンを押して渡ってしまつて、やつとこの街にも慣れてきたのになつて思っています。



横野利恵 (茨城県出身)

サラララップに包まれた冷凍ごはんは冷凍カレール。帰宅後にはまずテレビをつけて、部屋を音と映像の世界にします。いつもお弁当も自分で作っています。インナーホンの音にも過剰反応し、びくびくする毎日ですが、自分の目指す夢に向けても勉強できる大学生活は、楽しくうれしい日々でもあり、抜けた部分、友人に支えられ、毎日がんばっています。

放射線・情報科学科



剣持峰範 (群馬県出身)

放射線情報科学科に入学して三ヶ月が経ちました。まず感じたことは、思ったよりも時間が取れないということです。すべてが疑問に思ふことばかりで、あたりまえのように図書館へ足を運ぶ日々を送っています。今日もレポート、明日もレポート、あさっては再レポートの繰り返しです。でもこの生活になれてきた自分に惚れそうです。



赤羽純一 (長野県出身)

入学して三ヶ月がたち、日々忙しく過ごしています。このような生活の中で楽しみとなつてるのが「晩餐会」。大学の友人同士で集まり、手の込んだ料理を作り、時には栃木ならではの特産物を食べたりと、この土地だからこそ楽しめる集まりです。この大学は専門的な講義が多くわからないことも多いけれど、仲間と助け合い、毎日頑張っています。

医療経営管理学科



酒井杏子 (茨城県出身)

入学して三ヶ月が過ぎました。大学にはいろいろなサークル、部活があります。それらに入ると他学科の友達や先輩ができ、いろいろな情報交換の場となつてとても楽しいです。また、講義は自分で選ぶことができ、興味があったものは私も選択しました。必修の英語は高校の授業と違っているし、ネイティブの先生の講義もあり、毎日充実しています。



横井紀昭 (栃木県出身)

大学で新しい友人や先生方に出会い、高校の時とはまた違ったいろいろな考え方や価値観を学んでいます。親元を離れての暮らしなので戸惑う面もありますが、生活の一つ一つが勉強になっていきます。今はだいたい生活にもリズムができて充実しています。四年間は長いようでも短いと思います。目標を持ちつつけて何事にもチャレンジしていきます。

医療福祉学科



大石恵理 (静岡県出身)

今までは、広く浅くという感じてしか福祉のことを知りませんでした。しかし、大学に入ると本格的に福祉の勉強を始めると難しいことがたくさん出てきて大変だということがわかりました。また、生活面でも今まで親がやってくれていたことも今では全部自分でやらなければならぬので大変です。



西田崇大 (神奈川県出身)

将来ソーシャルワーカーになるのが夢でこの学科に入学しました。この大学は、医療福祉に関心がある人が集まっているので、やはりある程度の志や自覚を持って来ている人が多いと思います。そういう人たちが学科学科の枠を越えて互いに切磋琢磨しながら勉強しているの、とても学びやすいです。

卒業生からのお便り

全国から懐かしい声が届きました。

看護学科



藤生 珠生 さん
第1期卒業生

「息とめてグツときばって、ハイ、顔出たからね。次肩出るよ。」あれ？肩が出ない。「ちよっと力入れてみようか。」出ない、どうしよう、顔面のチアノーゼきつくなってきた。仕方ない、両手で引っ張ろう。うわ、重い。おめでとー。男の子。えっ？四千五百四十グラム!!これが一番最近経験したお産です。一年の間に正産期から死産まで様々な経験をしましたが、私は今日もどっぴり兵庫の地で助産婦の世界につかっって生活しています。



中山 秀幸 さん
第1期卒業生

私の勤務する精神病院は、都心に比較的近い市街地にあります。昨年春には九階建ての偉容と、設備を誇る病棟が開設されました。従来いわれてきた、精神病院にまつわる暗い、きたない、危険のイメージはもはや過去のものです。新しい治療環境のなか、看護態勢の見直しと刷新も始まり、病院は今や新世紀に向けて生まれ変わるうとしています。このような時宜、要請される役割や期待を自覚しつつ、一期生のプライドをバネに、自己を磨きたいと思っています。

理学療法学科



西田 圭子 さん
第1期卒業生

私は今年の春に結婚し、新しい職場へと移りました。新生活は学生時代慣れ親しんだ大田原ということもあって、楽しく、時にはケンカもしながら何とかやっていきます。仕事の方も大分慣れてきて、今は小児施設や老人施設、訪問リハビリテーションと様々な分野で働く機会をいただき、とても充実した毎日を送っています。そんな毎日を送っているのですが、ふと昼休みなどに青い空を見てしまうと学生の頃のようにドライブなども行きたいなあと思ってしまう。しかし、学生時代に十分に好き勝手なことをやらせてもらえなかったら、今こうして自分の道を見つけ、歩きはじめる事ができたのかなあとも思う今日この頃です。



安孫子 幸子 さん
第2期卒業生

国際医療福祉大学を卒業してからはや三ヶ月、最近月日が経つのが非常に早く感じられます。皆さん元気に過ごしてでしょうか？私は現在非常勤で仕事をしながら広島で大学院に通っています。仕事をしながら学ぶ大変さを日々感じております。大学生活で思い出されるのはやはり四年間をいっしょに過ごした仲間や先生方のことです。それぞれの土地で頑張っていることと思います。在学生のみならず実習等マイペースで頑張ってください。

作業療法学科



松本 乃里子 さん
第2期卒業生

私は山梨県にある病院に就職し発達障害の子ども達を対象にしています。就職する以前先生方に、「発達には慣れるのに五年はかかるよ。」と言われていました。がまさにその通り！毎日ドキドキ・ハラハラとの連続です。けれど、少しずつ子ども達の発達に複雑な絡みが見えてきた気がします。今はまだ試行錯誤・失敗と成功の繰り返しですが、あまり焦らずじっくり構えてやっていこうと思っています。今はとりあえず、子ども達に受け入れてもらうことが第一目標です。



那須 貴彦 さん
第2期卒業生

拝啓 孟夏の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。福田先生並びに諸先生方には、在学中、公私にわたり色々ご指導いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、現在私は函館の病院において忙しい毎日を送っております。毎日が勉強でまだまだ仕事に慣れるのに精一杯です。早く自分の殻を突き破って先生方の様な誰からも愛されるOTになれるようがんばりたいと思います。今後ともよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。まずは略儀ながら、書面にてお礼申し上げます。敬具

言語聴覚障害学科



谷川 ひとか さん
第2期卒業生

私は、今、山口県にありますがリハビリ病院で働いています。臨床を始めてから三ヶ月となり、ようやく病院にもなれてきました。実際の臨床は、患者さん一人の患者さんに対することとなり、一人一人の患者さんに対し大きな責任があります。しかし、その分大きなやりがいと楽しさを感じました。ようやく、STとして第一歩を歩きはじめてばかりです。これから、一步一步確実にSTとして成長していくために頑張りたいと思います。



田近 春奈 さん
第2期卒業生

現在、熊本県の病院で言語聴覚士として働いております。病院では、Dr、Ns、PT、OT、栄養士と摂食・嚥下チームを構成し、チームの代表として頑張っております。また、熊本県の言語聴覚士協会に入会し、勉強会や学会に参加しています。そこでは、STの先輩方と知り合っ機会があり、様々な相談にのっていただいております。まだまだ、胸を張ってSTと言える仕事は出来ていませんが、今は必死で頑張ろうと思っています。

放射線・情報科学科



中澤 千恵子 さん
第1期卒業生

診療放射線科の師として群馬県で二年目の夏を迎えました。ここは地域に密着した温かい雰囲気があります。そんな中でまだまだ未熟な私は、多くの方々に支えられて悪戦苦闘しながらも充実した毎日を送っています。これからこの大学で培った多くの事を糧として、人との関わり合いを大切に、よりよい医療が提供できるように向上心を持って仕事に励みたいで。



天川 一利 さん
第2期卒業生

鹿児島に来て、もう三ヶ月になりました。仕事にもだいぶ慣れ、現在、一般撮影と核医学検査を担当しています。もう、撮影に失敗して患者さんに迷惑をかける回数もめっきり減ってきました。撮影の際、患者さんからクレームがくることもありません。そういう時にはその患者さんを「師匠」として感謝し、撮影技術を学ばせていただいています。質の高い画像情報とは何か。これからは画像診断側とモダリティからアプローチなどいろいろと勉強の大切さを実感する日々です。

今回お便りをくださった卒業生の皆様、お忙しい中をどうもありがとうございます。皆様の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



国際医療福祉 リハビリテーションセンター

平成十二年六月十三日収録

IUHW三十二号の初山泰弘先生インタビュリーのなかでご紹介いただきました国際医療福祉リハビリテーションセンターについて、今先生は特集いたします。前号インタビューでは初山先生に今後のセンターの発展について夢を語っていただきました。そのお話を受ける形で、今日は鈴木義之、保田 稔両施設長先生、そしてセンター長の初山先生にお話を伺いたいと思います。



初山泰弘（はつやま・やすひろ）
国際医療福祉リハビリテーションセンター長
生年月日：昭和六年十月三十日
出身校：九州大学
専門分野：整形外科、身体障害者リハビリテーション
直前の勤め先：国立身体障害者リハビリテーションセンター
本校の担当科目：リハビリテーション概論



鈴木義之（すずき・よしゆき）
なす療育園 施設長
生年月日：昭和十二年三月十五日
出身校：東京大学大学院医学系研究科
専門分野：小児神経学
直前の勤め先：東京都臨床医学総合研究所
本校の担当科目：小児科学



保田 稔（やすだ・みのる）
那須療護園 施設長
生年月日：昭和十四年一月三日
出身校：中央大学 法学部
専門分野：福祉行政
直前の勤め先：栃木県民家コロニー

まず両施設長先生に、大学内にある施設として大学との連携について実感されていることがございましたらお話をください。

鈴木 この種の施設が大学の中にあるのは日本では非常に少なく、そういう意味で非常にユニークな施設です。キャンパスの中にあつて大学と常に連携を取ることが出来るのが最大のメリットです。人という面で初山先生をはじめ、大学の姿勢の方に助けていたたくのは非常にありがたいと思えます。

保田 福祉は「現場から学ぶ」ことが大事です。構内に福祉の現場があることは学生にとつてもメリットです。また福祉施設にとつても学生が来て現場で学んで、また大学に戻つて学問で体系づけていくことは、本場に大きな利を得ているといえます。以前勤めていた施設で他大学の実習生を受けていたときは大学や教員の姿が見えないことが難点だったが、ここでは目の前に教授陣・スタッフの姿がみえます。学生の姿がいつも目の前にあるのが大きなメリットです。

初山 両施設長先生のお話をうけて、センター長として今後の大学との連携に期待されること、要望などございますか？

初山 なす療育園は国内外で学問的にも高名な鈴木先生をお招きしそのもとに沢山の専門の先生がおいでになります。那須療護園の方は保田施設長という福祉の分野で経験豊かなリーダーをお招きしました。建物も立派です。あとは学生がこの施設を利用しての重症心身障害児・身体障害者の方の経過を観察して、将来臨床面で役に立つような経験をすること、そうすればこの大学は大変素晴らしいものになると思います。同時に大学のスタッフが臨床の場で支援するようになれば、このリハビリセンター自体が非常に豊富なサービスを提供できるようになるよう期待しています。

鈴木 大学の印象はいかがでしょう？

鈴木 まず、広い、大きい、学生さんの数が多いなと、驚いたのは学生さんが礼儀正しいことです。まだ施設もなく講義ももっていない頃、知らない人はずなのに、会つと挨拶する。他ではなかなかそういう経験がなかったから、感心して驚きました。

保田 素晴らしい教授陣がよくこれだけそろつたな、という印象です。学生は真面目で勉強熱心という感じですね。

初山 昨年一年間講義を担当しましたが、他の大学でいわれている私語、携帯電話の使用者がない。少なくとも私の授業のときは皆さん大変真面目に熱心で、これは素晴らしいことと思っています。二十一世紀の日本の社会福祉、医療、保健を担当する専門職がここから育っていくと、大変楽しみに思っています。

お三人の先生に学生へのメッセージをお願いします。

利用者の方、職員に聞く

平成十二年六月十三日収録

今回の国際医療福祉リハビリテーションセンター取材に当たり、利用者の方や、職員の方にお話を伺うことができました。最初に紹介しますのは那須療護園で生活されている入所者の鈴木さち子さんです。

鈴木 那須療護園の印象はいかがですか？

鈴木 施設で生活するのはここがはじめてなので他の施設は知らないけれど、ここはいいのではないかと感じています。大学のなかでよくいらつしやる場所などありますか？

鈴木 売店に行つたことがあります。またあまり他の場所にはいっていません。でも、どこかにいく途中で学生さんに会つとみんな挨拶してくれて、それがとても嬉しかったです。

鈴木 学生へのメッセージをお願いします。

鈴木 私は大きなことは望んでいません。ただ学生さんに私たちがここにいるということだけをおぼえてほしい。どんなことがお好きでしょうか？

鈴木 詩を書くことと料理をつくること、デイ・キッチンで野菜スープをつくりました。

鈴木（鈴木さんは詩集をまとめておられますが、詩集の中から一番気に入っている詩を本誌にご紹介くださいました。）

失敗

鈴木さち子

文字を書く事に失敗し
スプーンを持つ事にも失敗した
でも
心で感じる事だけは
失敗しないでできる

『元気だしなよ』
著者：鈴木さち子
領価 450 円

続きまして那須療護園生活指導員の和田一寿子さんのお話を伺ってみましょう。



和田一寿子 生活指導員の業務内容について教えてください。
和田 家族との連絡調整、行政とのやりとりが主ですが、ほかにも入居の方の精神面でのお世話、いろいろな行事を計画したりするのが仕事です。

和田 那須療護園では職種間で居場所が分かれていないので、ひとつの場所に看護職、生活指導員、介護職があり、情報交換がしやすい環境になっています。そのため職員間の連携は素晴らしくできていると思います。

ことがありますか？

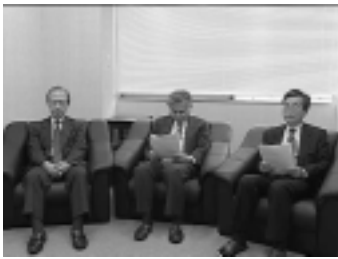
鈴木

重症心身障害児の世界は多分大部分の学生さんが全く経験したことがない別の世界だと思っています。障害児・者は特殊な障害を持っているということで極端に言えば哀れみの対象になりかねません。しかし、それぞれの身体的な問題を抱えながら立派に生活しており、無論そこには医療がなければ成立しないわけですが、そういう社会があるというところを実際に目で見て、特にリハビリテーションを目指す人たちはこの人たちに何ができるかを学生時代によく学んで欲しい。そして、その世界を通して自分を活かして、そして将来自分が仕事をするときにも広い視野を持って活動してほしい。

保田

福祉の担い手には専門性、技術性に加え、豊かな人間性、倫理性が要求されます。福祉は心なりといわれるように、豊かな人間性をもっていることが一番大事です。実習先にあちこち評判を聞いてみたところ、本学の学生はかかなり熱心でしかも自分の目標をもって実習しているという。熱心はいいが、それ以上に突っ込んでいただきたいと思えます。人間性を高めるためには臨床例が多いほど身を処する方法が身につくというので、この種類の異なった二つの施設にボランティアなり顔を出していただいて、いろんな障害を持った方がいらつしやるんだと知り、自分はどういうサービスをしていったらいいのかを自分で考え、自分の目標に向かって邁進していただきたい。指導とか訓練ではなく援助・サポートという視点から力を発揮していただきたい。福祉は一生かけてやっていってほしい奥の深さ、幅の広さを持っている。それを今のうちに勉強していただきたい。

初山 この大学でなければ学べないことをしっかりと身につけてもらいたい。理論だけでなく、実務が大切、マインドが大切。大学のなかで身につけたことが将来どういう風に役立つか、ということをつねに頭の中に入れていながら毎日大切に充実した生活を送って欲しい。



両施設長先生に、それぞれの施設を今後どのように発展させていきたいか、夢と希望を伺いたいと思います。

鈴木

それをどう活かすかということがこれからの問題です。福祉とリハビリテーションの側面については大学の支えがこれだけ多くあるので問題はないでしょう。もう一つの柱の医療がまだ十分ではありません。まず足元を固めて、それから子どもを中心とした医療の仕事を栃木県北で確立して、それから県全体へと広げたい。それから、日本国内にアピールして、国際的にアピールして、ということでは当然考えています。

保田 いままで県北にはこういう施設はなかったで、センターという名前が示しているように栃木県北における福祉のセンター的役割を担うように考えています。そのためには、人的・物的条件が整備されていく必要があります。質の高いサービスを提供するとなると、これからという感じがします。まだ噛み合わない部分があるので、二、三年経たないとできてこないかなとも思っています。また、このたび社会福祉事業法が社会福祉法に改正され、平成十五年には措置から契約の体制になるので、それに応じて人員体制も考えていかなければなりません。いままでは、身体障害者施設という暗いイメージがあったので、身体障害者施設と、明るいイメージと活気ある雰囲気づくりをして、明るい生活施設で家庭の延長として楽しく生活することをサポート・援助する、という考え方でやっていきたい。地域に対してサポートも考えたい。地域療育の拠点として在宅の障害者や保護者に対する総合的サービスも提供したい。そうすれば全国でもかなりレベルの高い施設として評価されるようになるのではないかなと期待しています。

ありがとうございます。



和

那須療育園のなかで自慢の場所はどこですか？

和 家庭に近い雰囲気でも利用できる場所です。

和 今後どういう施設になさっていきたくですか？

和 こちらとしては、利用者の方が施設に入っているということにこだわらず、どんな普通の生活に近づけていきたい。そのために学生さん、地域の方にどんどん入ってきて交流をはかってほしいです。ボランティアとして入っていただいている方にも力をお貸ししてあげたいですし、入居なさっている方にとっても社会との接点も与えるので有効だと思います。

和 学生へのメッセージをお願いします。

和 いつでも学生さんを受け入れたいという気持ちがあります。ここでたくさんの方を学んで将来の仕事に生かして欲しいし、私たちも学生さんからたくさんの方の学びたいと思っているのでもっと来ててください。ボランティアでもいいし、遊びに来る感覚で来ていただいてもかまわないと思います。

最後に那須療育園看護婦長の黒田美知子さんのお話です。



黒田 施設にしたいです。職員の方についてご紹介ください。看護職員の方が多いが一般病院からこちらへ来たので施設経験はなかったのですが、楽しく仕事をしています。国際医療福祉大学の卒業生も看護職と言語聴覚士として働いています。一人の子どものことを、看護職、介護職、OT、ST、医療職、大学の先生、ボランティアの学生さん、事務局職員が、みんなどうしたらいいか、何ができるかを考えています。いい感じにできていると思います。

黒田 なす療育園ならではのことで、どのようなことがございますか？

黒田 那須看護学校の先生が学校の授業に来て下さっています。

また、医師、看護婦、介護士、OT、PT、STの職種の人達が集まって週に一度入所者の治療、看護、リハビリ、生活全般について処遇会議がもたれています。すばらしいことだと思っています。ありがとうございます。



処遇会議では毎回活発な意見交換がなされます。



大学院 大学院研究報告会の開催相次ぐ

五月三十一日
二年生にとつて
第三回目の研究報告会が開催されました。大谷

学長、初山院長のご挨拶に続き、三十六名全員が過去二回の報告会を経て練り上げてきた研究計画の最終版を発表し、教員の皆様からの貴重なアドバイスを頂戴して、七カ月後に迫った論文完成へ向けてのラストスパートを切りました。

なお、来る七月十九日(水)には一年生の第一回研究報告会が予定されています。報告会終了後、大学院生全員と学長、大学院長、授業担当教員との懇親会を、一階学生談話室で開催致しますので奮ってご参加ください。ようお願ひ申し上げます。(笹沼澄子)

理学療法学科

二回目の卒業式を経験し、六期生を迎えて約三ヶ月が経ちました。各々の学年で実習や実技試験などがタイムスケジュールに沿ってながれていきます。そろそろ学生も教員も自己点検してみましよう。一、体調はよいですか。二、自己の内面に新たな発見はありましたか。三、創造の意欲がわいてきていますか。四、アイデアは浮かんでききましたか。五、自分の役割を認識していますか。六、リベンジしてチャレンジ精神は湧き上がっていますか。七、プラス思考で毎日が充実していますか。そして、自己実現に向かっていきますか。……。(久保 晃)

作業療法学科

三年生が総合実習に向けた活動開始
相互交流を!!
三年生が総合実習に向けて活動を開始しました。必要な情報を適切に入手し有効活用する技能はとて重要で、この機会を通して様々な体験をし、社会人としての資質を高め

て下さい。四年生との交流を通じた情報収集、三年生同士の協力・連携、そして後輩達への情報提供など……。ひとりでは限られたスキルを如何に活用できるか、これは現場に出てからも求められる技能です。対人サービス業を目指している皆さんだからこそ、多種多様なネットワークを経験・構築して下さい。(久保田清子)

言語聴覚障害学科

第九回言語障害臨床学術研究会開催
一九九一年に発足した「言語障害臨床学術研究会」を今年に言語聴覚障害学科が担当することになり、七月二十二日(土)、二十三日(日)の二日間「ユニオン」教室にて開催致します。臨床家への充実した発表・討論の場の提供と学術雑誌への論文投稿の援助がこの会の主たる目的です。これから言語聴覚士を目指す学生のみならず、多くの方が参加して下さい。(烏野幹夫)

放射線・情報科学科

運動会が五月二十七日(土)に開催され、わが放射線・情報科学科は二度目の優勝を勝ち取りました。何ととっても若さの動きの素晴らしい印象に残りました。最終プログラムのリレーなどはスピードがあり、かくも高速に足は回転できるものかと感激しました。

臨床(臨地)実習指導者会議が六月二十四日(土)に学内レセプションルームで開催され、今年度も、共に生きる社会を統一テーマに考えていくことになりました。出席予定の一人が急用で欠席となり、その代理出席者の付添人として本学卒業の一期生がこの会議に参加すると思ひも寄らぬ再会がありました。(野原功全)

医療経営管理学科

現在、当学科の四年生は就職活動のため東奔西走しています。思わぬ僥倖に喜ぶもの、厳しい現実に意気消沈するもの、まさにさまざまです。
この厳しい経験は、将来に必ずや役立つと信じています。自分が何者でもないことを知

ること、努力を怠ったことに気づくこと、等々。いずれもがきつと未来の原動力になることでしょう。そして、一〜三年生の皆は四年生が就職活動を通じて何を考え、苦しめ、そして学んでいるかを是非よく見て欲しいと思います。それは未来の就職活動に役立ちますし、何より自分を見つめることにもつながると思ひます。四年生の奮闘を期待しています。(田村 誠)

医療福祉学科

学生のパソコン格差
最近、新聞を読んでいると、「IT革命」とか、パソコンを使う人と使わない人の「情報格差」が、急激に拡大していると報道されています。学生の間でも同じような傾向が見られます。四年生は、卒業論文研究の文献検索でまず物凄価格差が開きます。さらに就職情報の把握でも各県の福祉人材センターや福祉団体の採用情報の把握でインターネットを使う者とそうでない者とは大きな格差ができています。ちなみに医療福祉学科三年生についてみると毎日インターネットやEメールを使う者が二十六%、時々使う者が五十四%、使わない者が二十%という結果が出ました。(鈴木五郎)

語学教育センター

七月は英語選択科目と
公開講座の「実りの時」
毎年七月は三、四年生英会話と英作文が週二回の授業を終え、それぞれにその成果を発表会で披露しますが、今年は「TOPIC」コースもその仲間入りをしました。七月十日(月)六時から軽食をとりながら、先生方から全員へ労いの言葉と賞辞が寄せられました。将来、この頑張り「実力」となって実ることを願うばかりです。そして、七月二十六、二十七、二十八日の三日間は、恒例の公開講座「English Day」の開催です。馴染みの参加者も増え、内容も年々充実してきています。今年「Let's Travel USA」をテーマに、機内や入国審査でのコントを演じ分ける楽しいものになります。(南井紀子)

基礎医学研究センター

リハビリテーションと基礎医学教育
コメディカル教育の中の基礎医学教育はどのように位置づけられるでしょうか。コメディカルの中でもリハビリテーションはとりわけ高齢者社会において果たす役割が非常に大きいのは当然です。リハビリテーションとは障害を持った人々に技術を「与える」提供することだと思ひましたが、「リハビリテーション」の本来の訳である「適応」を大きく拡大させると、「生きていく以上」人は須くりリハビリテーションの対象だと考えられます。そうすると基礎医学教育の立場が少し浮き上がってきます。人間がどんな部品をどのように組み合わせて「生きていく」かを見つければ基礎医学研究の一つの柱だからです。リハビリテーションを使って何かをすることは非常に大事だけれども、人間個体にふさわしいリハビリテーション：つまり「適応」を探り出すのも重要な目的ではないでしょうか。ひとつのパラダイムシフトの試みです。同じように基礎医学教育も「適応」に適応できる発想の転換を、いいかえればパラダイムシフトせざるを得なくなってきたそうです。(嶋田浩之)

健康管理センター

学生健康診断始まる
今年も学生健康診断の季節となりました。既に四月二十二日(土)から開始しています。七月二十二日(土)で終了する予定です。殆ど毎週土曜日に各学科の学生に集合してもらっていますが、大学院生を含め全部で三千五百三十七名という大人数です。多い日は一日で四百八十名にもなり、クリニックの中は大混雑となります。ご迷惑をお掛けする場面もあるかと思ひますが、学生生活をきちっと送るためには重要な事柄ですので、決められた時間を守り、また遅刻などしないよう、整然と検査が進むようご協力をお願いします。(都築正和)

リレーエッセイ

県北での観光



言語聴覚障害学科 松永達夫

学外、県外からの人達がIUHWを訪れる機会も増えており、ホストとなった場合には訪問客の滞在を極力楽しいものにできるよう努めることになる。客が遠方からやって来る時は、観光も一つの目玉となる。

この場合どこを案内するかは、滞在スケジュール、構成メンバー、好みなどにもよるが、海外からの客には国際的に名の知れた日光を案内することが多いようである。しかし、せっかくIUHWを訪問しに来てくれた客に対しては、できればこの機会にもっと県北について知ってもらいたいという気持ちにもなる。例えば春と秋の塩原、夏的那須高原、那珂川沿いのやな、芭蕉の奥の細道などがすぐに思い浮かぶ。それ以外にもタイミングが合えば花火や祭り、そしてやはりなんといっても大浴場のある温泉である。日帰りに入れる場所、眺望のよい露天風呂がついている所も多い。

自分がいったことがない場所に客を案内するのは失礼であろうし、抜け道を知っていればより快適に楽しんでもらうことも可能である。という訳で(?) 週末は周辺のドライブに精を出すことの多い今日この頃である。

次回執筆者：植田 恵 (言語聴覚障害学科)

「私が感銘を受けた本」(第6回)

書名：医外な物語

著者：青木国雄 出版社：名古屋大学出版会

紹介者：医療福祉学科 長谷川 豊



学生時代、他に趣味も無く、古今の所謂「名作」をノルマのようにして読みましたが、今は筋書きさえ殆どウロ覚えです。

ここにご紹介するのは、尊敬する愛知県がんセンター名誉総長、青木国雄先生が約10年前に出版された、医学・医療にまつわるエピソード集ですが、「人間史」そのものといってよい豊富な内容で、今更ながら先生の該博さに驚嘆します。感銘を受けただけでなく、読みやすく、かつ、勉学にも役に立つので、学生諸君に推薦致します。

今回ご紹介いただいた著書は、図書館の大谷学長著書の右側の書棚に置きます。是非ご愛読下さい。(図書館長)

私の研究ノート

音声評価のための音響分析

情報教育センター 菊地 義信



教職に就いて四半世紀が過ぎましたが、その間、様々な研究を行ってきました。これまでの私の研究に共通するキーワードは「電子回路」と「プログラミング」です。点字読みとり装置や触図システムの開発、音声入力・分析のための専用装置の開発、音声分析アルゴリズムの研究、音声を用いた喉頭癌スクリーニングシステムの開発、そしてそれらを利用した応用研究です。音声分析に關するようになったのは恩師に依るところが大きいです。ここでは音声の分析に話題を絞って話を進めることにします。現在では音声の分析は汎用的な技術です。音響分析という工学的な印象が強いのですが、医学/言語学など、様々な分野で利用されるようになってきました。

風邪を引いたときなど喉頭の病変により発声した音声に変化することはよく経験することです。声帯に病変が生ずると声帯振動が不規則になり、音声に周期や振幅の大きなゆらぎとなって現れます。また、病変の位置によっては声門が完全に閉じなくなり、隙間を呼気が流れることで乱流が発生し、結果として発声した音声に雑音が多く含まれることとなります。音声を調べ評価することで病的な音声か否かが判断できるようになります。喉頭疾患で特に問題となるのは声帯癌です。喉頭癌の発症率は喫煙者で幾分高いものの全体として低く、転移しにくいため進行した癌でも切除することで完治するといわれています。しかし、声帯癌などで声帯を切除した場合には声を失うことになり、声による意思の伝達ができなくなります。やはり、早期発見・早期治療が大切になります。この早期発見を補助するために「音声による喉頭癌のスクリーニングシステム」を開発しました。また、その機会を広げるために「電話回線を使つてのスクリーニング」にまで発展させ、現在、国立がんセンター東病院と愛知県がんセンターで、実験システムが稼働しています。

教員紹介

各学科・センターから次の順でご紹介頂いております。

所属・職位 生年 出身校 専門分野 直前の勤め先 主要著書又は論文どちらか1点
本校における担当科目 趣味



直江章子(ナオエ ショウコ)

医療福祉学科・助手 1971年
淑徳大学大学院博士前期課程
障害者福祉 東洋大学
海のスポーツ(ボディーボードなど)
観劇、絵画鑑賞など



伊藤まゆみ(イトウ マユミ)

看護学科・講師 1955年 11月9日
筑波大学教育研究科カウンセリング専攻
ターミナルケア・コミュニケーション論
東京都立府中看護専門学校
保健婦のためのSST(Social Skills Training) 人
関係づくりのコミュニケーションスキル
成人看護(慢性期・終末期)コミュニケーション
論 低山ハイイク、写真など



出田和泉(イツタ イズミ)

言語聴覚障害学科・助手 1967年
筑波大学修士課程心身障害学研究科
聴覚障害学 東京都心身障害者福祉センター
失語症患者への音楽療法によるアプローチ
ピアノ・手話

お詫びと訂正

前回32号の「教員紹介」におきまして楠元克徳(クスマト カツノリ)先生のお名前が間違っておりました。お詫びして訂正いたします。

IUHWクイズ - 第20弾 - 当選者発表

IUHWクイズにたくさんの応募をいただきありがとうございました。今回正解者は33名でした。その中から厳正な抽選の結果、上野弘靖さん(経営3年)が当選しました。おめでとうございます。当選者は学生証を持参の上、L棟学生課までお越し下さい。



- A: How's your company doing?
B: It was making money last year. But now it's in the (red).
- A: You have a very nice car, Mike.
B: No, it consumes a lot of gas and a (white) elephant that I can't sell.
- A: What is she like?
B: Well, she gives the impression of being tough, but she has a heart of (gold).
- A: How often do you see your grandchild?
B: Well, he visits us once in a (blue) moon.
- A: Hi, Janet, how are you doing?
B: I feel in the (pink) after a long period of rest.

blue, pink, green, red,
black, gold, white,

コラム ~さわやかな風~



左から「どん」君、お母様、河和さん

河和さんは一級の障害者手帳を持ちながら、本学でSTを目ざして勉学中です。

皆さんは構内を散歩している犬を見たことはないでしょうか？最初は乗ってくる車の中から人を見るなり吠えていたその犬はいつの頃からか静かに飼い主を待つようになっていました。

今回はその犬の飼い主言語聴覚障害学科3年の河和 紅(くれない)さんにお話を聞いてみました。

Q: この大学を選んだ理由を教えてくださいませんか？

河和: 以前、東京の身障者の為の療護園にいた時、ST(言語聴覚士)不足で満足な治療を受けられないでいる子供達を眼にし、STを志したのがきっかけです。

お母様: STの資格を取れる大学であればどんなに遠いところでも構わないと思っていましたが、こんなに近い所に目的の大学があり本当に驚きました。(河和さんは福島県の白河市の出身で、現在はお母様の運転する車で黒磯から通っています。)

Q: 3年生になりましたが、今までこの大学に通ってみての印象はどうですか？

河和: とても忙しいし、大変だなという思いが強いのですが何とか2年間頑張っただけ良かったと思っています。

Q: 河和さんにとって大学の施設・設備面で不自由な点はありませんか？

河和: 私にとっては小さな段差も障害になります。スロープをつけてもらうなどの改善をしてもらいましたが、まだ、ドアが狭かったり、重かったり或いは身障者用のトイレが少ないと感じていますのでもう少しその辺を改善してもらえたらとの希望があります。

Q: 学生生活も後1年半ぐらいになりましたがいかがですか？

河和: このまま頑張っただけ卒業を目指すか、もう少し余裕を持って自分の体と相談して焦らずマイペースで行こうか迷っています。

Q: 話は変わりますが、自分で車を運転してみたいと思いますか？

河和: 勿論、車を運転できれば好きな所へ自由に行くことができるので是非運転免許を取りたいと思いますが、大学の勉強との両立を考えると難しいかなとも思います。これまでも一歩一歩マイペースでここまでできたのでその辺もゆっくりと考えていきたいと思っています。

お母様: 一生懸命頑張ってくるとその時々で何かチャンスがあるので今はこの学校生活を全うすることなのかなと、あれもこれもというのはちょっと体力的に欲張りかなとも思います。ここまでできたから時期が来たら少しずつできるのかなとも思います。

河和: 一生懸命といっても無理はあまり良くないと思いますが、無理をしたからこそここまでこれたと思ひますので、そのバランスを考えながら頑張っていきたいと思っています。

偶然そこに笹沼先生がおいでになりお話が始まりました。

笹沼: 調子はどうですか？1年生の頃に比べて自信がつけましたね。

お母様: でも2年生の時は一時はくじけそうになったこともあったんですよ。

笹沼: そうですか。専門科目が増えて大変ですものね。そんな事があったんですか。でもお母さんの対応も良かったんですね。これからも頑張らしましょうね。

お母様: 日本を代表するSTの専門の笹沼先生に励ましていただいていたのでうれしいことです。ありがとうございました。



河和さん、お母様、暑い中長時間ご協力ありがとうございました。明日の医療福祉分野の担い手を目指してこれからもがんばって学生生活を続けて下さい。

ナースステーションから 「てんてき」

国際医療福祉病院看護部長 平野澄子



てんてきということばから連想されることは、私たち医療関係の仕事に携わる者として、先ず「点滴」という文字である。つまり、日本語には、同音、異義の文字が沢山ある。「点滴」と「天敵」はその1つの例と言える。

前者の「点滴」は病院でよく行われている行為である。つい先日、6月27日の日経新聞に載っていた記事によると、看護現場で起きた医療事故二

アミス事例割合は注射、点滴などの業務が3割を占めていた。病いを回復へと導くはずであるこの点滴がややもすると「天敵」となる場合がある。さて、この「天敵」であるが、自然界の極めて厳しい現実の姿であり生物が生き抜くための摂理と言える。そこには多くの天敵から身を守る工夫が数えきれないほどなされている。

私達の人間社会についても、おもしろいことに自然界の天敵関係があてはまってしまうことがしばしばある。

例えば、AさんはBさんに強いがCさんは全く苦手ということがよくある。少なくとも私たち人間社会にはこの天敵関係を持ち込みたくないものである。さらに、仕事の場には絶対に天敵関係を作ってはならないと常日頃考えている1人である。

編集後記

本号最終ページでは、1人の学生にスポットを当てたコラムを掲載しました。編集スタッフが河和さんの通学の姿や日々のがんばりに間近に接し、強く心引かれる思いに駆られたのはもう2年以上も前のことです。次第に言葉を交わすようになり、今回の取材が実現しました。それぞれに困難と闘いながら学業に取り組む学生たちにエールを送るIUHWでありたいと願っています。

(田澤 薫)

IUHWクイズ - 第21弾 -

もうすぐ夏休み！皆さん、スケジュールは決まりましたか？

ところでこれからの季節、大学があるここ大田原では雷様が活躍！！そこで次のような問題にチャレンジしてみてください。正解を記入したら管理棟の事務局窓口外側にあるメールボックスへ投函してください。正解者多数の場合は、抽選で1名の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、締め切りは9月25日(月)です。キリトル

問題: ある夏の日の夕方、雷が落ちて4人の学生の家が停電になってしまいました。彼らは街の東端、西端、南端、北端にそれぞれ部屋を借りて住んでいて、停電した時間を順不同にあげると4時から5時、4時半から5時半、5時から6時、5時半から6時半でした。以下のヒントからどの学生がどこに住んでいて、いつ停電になったのかを教えてください。

- 1, 斉藤くんの住まいは街の北端にあります。
- 2, 井上さんの家が停電になったのは4時からではありません。
- 3, 小林くんの家に電気が戻ったとき、西端の学生の家が停電になりました。
- 4, 南端の家に電気が戻ったとき、工藤さんの家はまだ停電していませんでした。

解答用紙	学科	学年
名前		
解答: (a)家の位置 (b)停電した時間		
1,	小林 (a)	(b)
2,	工藤 (a)	(b)
3,	斉藤 (a)	(b)
4,	井上 (a)	(b)